

## 研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：株式会社 森伸

実施方法については、要綱別紙 2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（要綱別紙 1）			実施計画				
講義・演習（実習）			カリキュラム名・時間数		実施内容		
1	職務の理解	6 時間	1	職務の理解	時間数	うち通学 うち通信	1 職務の理解
	(1)多様なサービスの理解			(1) 多様なサービスの理解	3	3	(1) 介護保険のサービスの概要
	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解			(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	(2) 介護の仕事の内容、視聴覚教材を用いて、具体的に学習。
2	介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援	時間数	うち通学 うち通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1)人権と尊厳を支える介護			(1) 人権と尊厳を支える介護	5	1 4	(1) 個人としての尊重、利用者のプライバシー保護、個人情報保護法、人権擁護などを踏まえて学習
	(2)自立に向けた介護			(2) 自立に向けた介護	4	1 3	(2) 自立支援、介護予防について学び、本当の自立支援とは、どういう事が理解する。
3	介護の基本	6 時間	3	介護の基本	時間数	うち通学 うち通信	3 介護の基本
	(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携			(1) 介護環境の特徴、介護の職種・専門性について	2	1 1	(1) 訪問介護と施設介護サービスの違い、チームケアにおける役割分担、重要性について
	(2)介護職の職業倫理			(2) 介護の倫理	1	0.5 0.5	(2) 介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重
	(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント			(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1 1	(3) リスクマネジメント、感染の原因と経路、感染についての正しい認識
	(4)介護職の安全			(4) 介護職の安全	1	0.5 0.5	(4) ストレスマネジメント、腰痛予防、手洗い・うがいの励行

第 1 - 2 号様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間		時間数	うち通学	うち通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1)介護保険制度		3	0.5	2.5	(1) 保健制度としての基本的仕組み、介護給付と種類
(2)障害者総合支援制度及びその他の制度		3	0.5	2.5	(2) 障害の概念、ICF、成年後見制度などについて
(3)医療との連携とリハビリテーション		3	0.5	2.5	(3) 施設における看護と介護の役割・連携
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間		時間数	うち通学	うち通信	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1)介護におけるコミュニケーション		4	2	2	(1) 利用者の状況に応じたコミュニケーション、アセスメントの手法、ニーズとデマンドの違い
(2)介護におけるチームのコミュニケーション		2	1	1	(2) 介護における記録の意義・目的・情報共有の大切さ
6 老化の理解 6 時間		時間数	うち通学	うち通信	6 老化の理解
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常		3	1.5	1.5	(1) 身体的機能の変化と日常生活への影響などについて
(2)高齢者と健康		3	1.5	1.5	(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
7 認知症の理解 6 時間		時間数	うち通学	うち通信	7 認知症の理解
(1)認知症を取り巻く状況		1	0.5	0.5	(1) 認知症ケアについてできる事を学ぶ
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		2	1	1	(2) 認知症の定義・物忘れとの違い、心理・行動の特徴
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		2	1	1	(3) 認知症の中核症状・行動・心理症状、不適切なケア、生活環境による改善
(4)家族への支援		1	0.5	0.5	(4) 家族の介護負担の軽減

第 1 - 2 号様式

8 障がいの理解 3 時間	
(1)障害の基礎的理解	
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	
(3)家族の心理、かかり支援の理解	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 7 5 時間	
ア 基本知識の学習 10～13時間	
(1)介護の基本的な考え方	
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	
(4)生活と家事	
(5)快適な居住環境整備と介護	
(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信	8 障害の理解
(1) 障害の基礎的理解	1	0.5	0.5	(1) ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、ノーマライゼーションの概念
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	(2) 身体・知的・精神障害の分類について
(3) 家族の心理、かかり支援の理解	1	0.5	0.5	(3) 障害の理解、受容支援、介護負担の軽減
9 こころとからだのしくみと生活支援技術				
ア 基本知識の学習	時間数	うち通学	うち通信	ア 基本知識の学習
(1) 介護の基本的な考え方	4	3	1	(1) ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除
(2) 介護に関する心のしくみの基礎的理解	4	3	1	(2) 自己概念と生きがい、心の持ち方が行動に与える影響
(3) 介護に関する体のしくみの基礎的理解	4	3	1	(3) ボディメカニクスの活用、心と体を一体的に捉える
イ 生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通学	うち通信	イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 生活と家事	4	3	1	(4) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援生活歴、自立支援、予防的な対応などについて
(5) 快適な居住環境整備と介護	4	3	1	(5) 家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与
(6) 整容に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	6.5	0.5	(6) 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果
(7) 移動・移乗に関連した心と体の仕組みに向けた介護	7	6.5	0.5	(7) 移動・移乗に関する用具と活用方法、ベッド・車いす等を使っての演習
(8) 食事に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	6.5	0.5	(8) 食事環境の整備・用具・食器の活用方法と食事形態と体の仕組み、食事の意味・ケアに対する介護者の意識

第 1 - 2 号様式

(9)入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 入浴、生活保持に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	6	1	(9) 入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴のあり方、全身清拭など
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 排泄に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	6	1	(10) 排泄用具の活用方法、環境整備、排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 睡眠に関連した心と体の仕組みと自立に向けた介護	7	6	1	(11) 睡眠環境と用具の活用方法、睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法
(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 死にゆく人に関連した心と体の仕組みと終末期介護	3	2.5	0.5	(12) 生から死への過程、死に向き合う心の理解、終末ケアに関する事
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13)介護課程の基礎的理解	(13) 介護過程の基礎的理解	5	4	1	(13) 介護過程の目的・意義・展開、グループディスカッション
(14)総合生活支援技術演習	(14) 総合生活支援技術演習	5	4	1	(14) 事例の提示 心と体の要因の分析 適切な支援技術の検討 支援技術演習・課題
10 振り返り 4 時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1)振り返り	(1) 振り返り	2	2		(1) 研修を通して学んだ事、今後継続して学ぶべき事、根拠に基づく介護についての要点
(2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修	(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	2		(2) 継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例等(Off - jt、Ojt)
終了評価試験（カリキュラム時間数には含まない）	終了評価試験	1	1		各受講者の知識及び技術等の取得度評価する為
計 ( 1 3 0 時間 )	計	1 30	9 0	4 0	

カリキュラム以外で介護施設に一日体験学習の予定（案）

通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。

時間配分の下限は、30 分単位とする。

項目ごとに時間数を設定すること。

実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。